

2005年7月1日  
日本銀行盛岡事務所

## 岩手県金融経済概況

### 1. 概況

県内経済は、一部製造業において企業の業況感が改善するなど明るい動きも見られるが、依然として横這い圏内から脱しきれていない。

すなわち、生産面では、自動車や設備投資関連等で高水準の生産が続いているほか、IT関連業種での在庫調整が進捗しており、生産面での下押し圧力が減衰しつつある。こうしたことから、企業の景況感も製造業を中心として足もと改善している。しかしながら、最終需要の動向をみると、個人消費では、雇用・所得環境に捗々しい改善がみられない中、大型小売店の売上等を中心として弱めの動きが続いているほか、住宅投資が横這い圏内で推移しており、公共投資は減少傾向が続いている。

(注) 企業の景況感の詳細については、「岩手県短期経済観測調査結果(2005年6月)」(2005年7月1日、日本銀行盛岡事務所)を参照。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、家電販売に一部持ち直しの動きもみられるが、大型小売店では主力の衣料品等を中心に売上げの低迷が続いているほか、旅行取扱高も伸び悩んでおり、全体としてみれば弱めの動きが続いている。

#### (大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、百貨店における地場物産展など催事売上げは好調な動きを見せているが、ウェイトの高いファミリー層の消費抑制姿勢が続く中、主力の夏物衣料品等が落ち込んでおり、量販店では客単価の下落に歯止めがかからない状態が続いているなど、全体として低調な地合いが続いている。

この間、中元商戦の動きをみると、地場製品の充実や無料配送商品の拡大、中心価格帯の引下げ等による個人需要の取り込みを図っている。

(家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、パソコンが夏モデルの投入にもかかわらず盛り上がり欠け、低調な域を脱していない。もっとも、デジタルAV家電（薄型テレビ、DVDレコーダー等）や高機能白物家電（洗濯機、電子レンジ等）といった高付加価値型の商品に加え、季節商品（エアコン、冷風機）が好調な販売をみせている。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、新たな新車投入による小型車の増加に加え、軽自動車も高い伸びを示したことから、5月は4か月ぶりに前年を上回った。

(旅行取扱高、観光)

旅行取扱高は、海外旅行がアジア向け中心に持ち直しの傾向にあるものの、国内旅行は弱めで推移している。

この間、県内の観光地の入込み状況をみると、大河ドラマ「義経」による集客効果がゴールデンウィーク以降も持続しており、平泉地区を中心に観光客が増加している。

(2) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、単月の振れを伴いながらも、基調的には横這い圏内で推移している。

(3) 公共投資

公共工事請負金額をみると、予算規模の縮小を背景として減少傾向にある。

3. 生産動向

生産面では、輸送用機械、設備関連等で高水準の生産を継続している一方、IT関連分野の在庫調整が進捗し、生産面での下押し圧力は減衰している。この間、建設関連では低水準の生産が続いている。

(電気機械)

半導体・電子部品は、製品や出荷先により濃淡はあるものの、在庫調整が進展しており、情報通信関連では新製品や新サービス向け需要に動きがみられるなど、全体として生産面での下押し圧力が減衰している。

( 輸送用機械 )

完成車は、国内向け新型車種の投入効果一巡から一頃に比べ増勢は鈍化しているが、輸出向けを含め、引き続き高水準の生産が続いている。自動車部品でも海外需要が好調であることから、高操業を続けている。

( 設備関連 )

工作機械では、自動車部品メーカー向けを中心に豊富な受注残を抱え、フル操業を続けている。

( 消費関連業種 < 紙・パ、精密機械 > )

紙・パ(段ボール原紙)は、菓子類や飲料品向け需要の好調から、堅調に推移している。精密機械(時計部品)は、輸出市場における海外メーカーとの競合から、生産を抑制する傾向にある。

( その他 )

鉄鋼は、国内自動車メーカー向け出荷(線材)の好調から高水準の生産を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの建設関連品目では、一部に中越地震の災害復興需要がみられるものの、全体としては、公共投資の減少等を背景として生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

#### 4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率は足もと緩やかながら低下しており、改善基調にある全国平均と比べて、格差が拡大している。

また、所得面をみると、所定外労働時間が一部製造業の在庫調整等を反映して伸び悩んでいることや、パート化の促進等企業の人件費抑制スタンスが続いていることなどから、全体として捗々しい改善をみていない。

#### 5. 企業倒産

企業倒産をみると、総じて落ち着いた動きとなっている。

#### 6. 金融動向

預金は、個人預金がなお底堅い動きにあるものの、投資信託等預かり資産へのシフトから伸び率が低下傾向にあるほか、法人預金が企業の財務リスト

ラ継続を反映して、また公金預金も財政難による基金取り崩しの動きが見られることから低調に推移しており、5月末の実質預金残高は僅かながら前年を下回った。

貸出は、法人向けが資金需要の低迷から引き続き低調に推移しているほか、個人向けもこのところ住宅ローンを中心に伸び率が鈍化してきているが、地公体向けが、長期貸付を債券発行形式から証書形式へシフトする動きがみられることから増加傾向にあり、5月末の貸出残高は前年を上回った。

以上